

【評価実施概要】

事業所番号	170501324		
法人名	医療法人愛全会		
事業所名	グループホームちようちようの家		
所在地	札幌市南区川沿12条2丁目2-23 (電話)011-578-5561		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年1月14日	評価確定日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(20年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 10月 10日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人, 非常勤 0人, 常勤換算 0人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2階建ての 1~2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1ヶ月当たり 43,000円 円		

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	
年齢	平均 86.3歳	最低 78歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	愛全病院・クリニック愛
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道から少し入った古くからの住宅地に建ち、壁面には母体法人のキャラクターが描かれ近親感がある。国道沿いは、スーパー・コンビニ・衣料品店・飲食店・病院等がある商店街で、生活環境・利便性が良く日常的に買い物・散歩に出かけ近隣の住民と挨拶を交わしている。管理者と職員は利用者個々の思いや希望を大切に、一日がかりで『墓参り』を実現するなど、利用者本位の支援を心掛けている。このホームの最大の特徴は機能的な居室で、トイレ・洗面台・キッチン・物入れがあり清掃も行きとどき清潔感があり、家族の来訪時には居室でゆっくり過ごす事が出来好評である。さらに母体医療法人は高齢者医療の担い手で、入院病床もあり利用者・家族・職員も大きな安心感に包まれている。今後も質の高いケアの実践と共に、地域住民から支援されるホームであるよう期待したい。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題、地域密着型サービスとしての理念・災害対策は改善計画シートを有効に活用し改善された。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全体会議・ミーティング等で評価の意義の確認をしている。自己評価は全職員が取り組み、話し合いを重ね検討し管理者がまとめ仕上げた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議には家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員・母体法人職員・管理者が出席し開催している。ホームからは近況報告・行事計画・外部評価の結果報告・災害時の対応等。町内会からは共に暮らす地域住民として町内会行事の参加依頼。母体法人からは高齢者虐待等。家族からはホームの取り組み状況等が理解出来たとの意見が出た。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	母体法人が年に1度、家族にアンケートを依頼し結果を運営に活かしている。また来訪時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようにしている。また家族がホーム行事に参加することにより、家族同士が交流できる機会を作っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、祭り・新年会・清掃等の町内会行事には積極的に参加している。町内のふれあいサロンに参加する事で外の空気や地域の人達と接することが出来、程良い刺激になっている。同じ町内会に母体法人のグループホームがあり互いに交流している。

## 評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念を理解し、事業所独自の理念『ひとり一人の思いがかなえられ家庭的な雰囲気の中、地域との交流を図り日々生活できることを支援します』を掲げ、実践している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に目で見えて確認するよう、事務室・居間・廊下に掲出している。会議の時には理念に添ってケアの実践をしているかを話し合い、確認している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、祭り・新年会・清掃等の町内会行事には積極的に参加している。町内のふれあいサロンに参加する事で外の空気や地域の人達と接することが出来、程良い刺激になっている。同じ町内会に母体法人のグループホームがあり互いに交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全職員が取り組み話し合いを重ね検討した。前回外部評価の結果は改善計画シートを活用し、改善に取り組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には家族代表・町内会長・地域包括支援センター職員・母体法人職員・管理者が出席し開催している。ホームからは近況報告・行事計画・外部評価の結果報告・災害時の対応等。町内会からは共に暮らす地域住民として町内会行事の参加依頼。母体法人からは高齢者虐待等。家族からはホームの取り組み状況等が理解できたとの意見が出た。</p>		<p>運営推進会議は、行政・町内会・家族・事業所の意見交換の場として2カ月に一度の定期的開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム協議会・区グループホーム管理者連絡会・地域包括支援センター主催の研修会などに参加し、情報を交換・共有しサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>機関紙『ちょうちょうの家便り』を発行し、利用者の日常の様子や出来事などを報告している。その他に管理者自筆の手紙を行事写真と共に月に1度送付し近況報告をしている。金銭関係はこづかい帳コピーと領収書を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>母体法人が年に1度、家族にアンケートを依頼し結果を運営に活かしている。また来訪時の会話の中から希望・要望・意見をくみ取り、家族の思いを受け入れ、ケアに反映するようにしている。また家族がホーム行事に参加することにより、家族同士が交流できる機会を作っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内の異動は最小限にとどめ職員を固定化し、利用者との馴染みの関係を大切にしている。退職については特別の配慮をし、ダメージを防ぐ努力をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内の研修会が月一度ある。外部研修会については、多くの職員が出席出来るように勤務調整をしている。研修後は全職員で共有できるようにカンファレンスで報告している。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センター主催の研修会に参加し、他のグループホーム職員と交流し意見交換している。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には利用者・家族の見学等で不安を解消する取り組みや、家庭・病院・施設に向く等、時間を掛け対応している。入居後は様子を見ながら不安を少なくするよう接し、昔からの生活習慣を大切に、徐々に馴染めるようしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として、得意分野で力を発揮してもらうための場面設定に配慮・工夫をし、利用者中心の生活をしている。常に尊敬の念を忘れずに感謝の気持ちを持つよう心掛け、共に学び支えあう関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の様子や会話から本人の思い・希望をくみ取り、センター方式を使用したアセスメントを行い、本人らしい暮らしを支援している。</p>		
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりの中から、本人がより良く暮らせるようニーズや希望を汲み取っている。面会時には家族からも情報・要望を聞き、ミーティング・カンファレンスや情報交換などで検討し、介護計画に活かしている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度、介護計画の見直しをしている。カンファレンスノートに毎日の状態や気づきを記録し、会議で話し合い状況に即したケアプランを作成している。また、変化が生じた場合は随時見直しを図り、実情に即した介護計画を作成している。</p>		
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>日常的な散歩・買い物その他、事業所の多機能性を生かし、個別の外出支援をしている。糖尿病の為にインシュリン注射が必要な利用者には毎日朝・夕の2回、車で病院に送迎し付き添い介助の支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力病院医師の訪問診療は2週間に一度、看護師による訪問看護は週一度。緊急時には24時間対応になっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>『重度化した場合における対応に係る指針』は文書化し説明している。また状態の変化時にはすぐ家族へ連絡し、きめ細かな対応をしている。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>人生の大先輩として利用者一人ひとりを尊厳し、プライドを大切に対応し、プライバシーを損ねる事のないように配慮している。記録等の個人情報は事務所で厳重に管理し、取り扱いにも注意をしている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>毎日の決まり事はなく、基本的に自由に過ごしている。体調に配慮しながら出来るだけ個性のある生活を実施している。散歩・買い物・入浴等も個々のペースに合わせ本人本位に支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせたメニューを提供している。準備・後片付け等、三度の食事に関する一連の流れを一日の大切な活動の一つ考え、個々のペースに合わせ、職員と一緒に楽しみながら行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に意思確認し午後のゆっくりした時間帯に入浴しているが、希望の日・希望の時間に入浴できる。希望があれば毎日の入浴も可能。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備・調理・配膳・後片付け・掃除等、利用者の経験・知識を発揮する役割作りを設定している。外出・散歩・地域行事参加等の楽しみ事や気晴らしの支援もしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	心身の活性化につながるよう、日常的に買い物・近隣散策・花壇の手入れで戸外に出掛けている。一人ひとりのその日その時の体調に配慮し、外出する楽しみを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギをかけないケアの大切さを理解し、日中鍵は掛けていない。入居者の動向に気を配り、見守り支援をしている。常に気配り目配りで見守り、自由な暮らしを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力のもと避難経路の確認、消火器の使い方、設備点検も定期的に行われている。緊急通報システムは母体法人と消防に直結している。さらに周辺地域の人達にも災害発生時には協力を頂けるように運営推進会議を通じ、働きかけをしている。同じ町内に母体法人があるのも心強い。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。母体法人栄養課管理栄養士の指導のもと、カロリー・栄養バランス・塩分摂取に気を配り、食欲が出るよう見た目にも美しく盛り付けしている。また糖尿食等、個々人の身体・咀嚼・嚥下状況にあわせた食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングには2台の丸テーブルが置かれ、利用者はほとんどの時間を一つの家族のように居間で過ごしている。共用空間の壁には利用者の作品や行事写真が飾られ、トイレ・浴室・廊下には手すりが効果的に配置されている。隣接する応接間には、椅子やテーブルが配置され家族との団らんや、自由に寛げる場所として利用されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはトイレ・洗面台・キッチン・物入れがあり実用的に作られている。馴染みのベッド・タンス・ソファなどを自宅から持ち込み、写真や作品を飾り、居心地良く過ごせるよう心がけている。部屋が広いので家族が来てもしっかり寛ぐ事が出来る。		

 は、重点項目。